ゆるやかな縁で
いのちが助かるまちを、共に創り上げる

「知らない」ことで、失われてしまうかもしれないいのちがある

2018年7月7日、西日本豪雨によって倉敷市真備町川辺の家が全壊した。逃げ遅れ、いのちを落としたのはケアを必要とする災害弱者だった。

そのころ、被災エリアに立地するショッピングセンターでは、浸水こそ免れても、スマホが使えず安否確認ができない、従業員が帰宅困難になる、物流が機能せず物資が届かない等、想定外の事態に見舞われていた。浸水全壊した商業施設や小売店の中には、その後営業再開しないというつらい決断を下した店もあった。

被災後、住まいに隣接する寺の石碑に刻まれた明治26年真備大洪水の伝承、繰り返し発生していた水害の歴史を知った。知ることは怖い。だが、「知らない」ことで、失われてしまうかもしれないいのちがあるのだ。

まちの風土を知り縁をつなぐことで、コミュニティの力を取り戻す

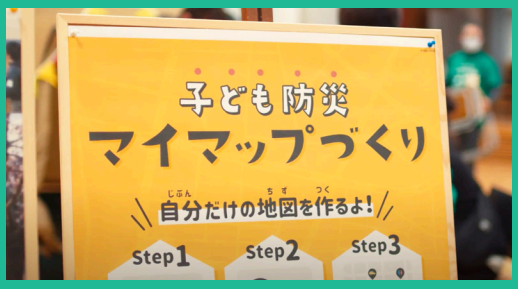
明治以降、産業構造の変化で人々は移動し始め、街の景色は一変した。大災害の記憶は引き継がれず風化しがちであるが、地球温暖化により多発する自然災害は、どこでいつ発生してもおかしくはない。
今一度、地域の風土や伝承を掘り起こし、体験や知識は共有されなければならない。

商業施設は、コミュニティの課題や困りごとに寄り添い、備えることの体験や情報発信をしていく役割を担うことができる。救えるはずの命を守るために、住む人、働く人とともに、地域や公共機関と智慧を出し合い、汗をともにかける存在だ。
さまざまな縁をつなぎ、コミュニティの力を取り戻すことで、災害に強いまち、もしもが起きても、早く日常に戻れるまちづくりが可能となる。そんな商業施設の力強さが、まちを選ぶ理由のひとつになる。

EnPalは思いを同じくする商業施設と共に、前に進んでいきたい。

救えるはずのいのちが助かるまちづくりを

EnPal



はじめての防災

ともに感じる
防災啓発映画鑑賞

防災啓発ドキュメンタリー映画『いつか君の花明かりには』(山崎光監督・小川光一監督)を上映します。災害が起きても他人事でいる私たちに、震災をきっかけに防災の大切さを訴える人たちがいます。
温かい気持ちで防災がしたくなる映画です。

©いつか君の花明かりには製作委員会

ともに考える
子ども防災マップづくり

家の近くで大雨が降ったらどこが危険か、地震が起きたらどこが崩れやすいかなどを「ハザードマップ」で確認します。避難場所や食料・水、トイレの確保など、子どもが自分で考えて、楽しみながら自分だけの地図を作るワークショップです。

©一般社団法人 データクレイドル

ともに備える
地域に合わせたオリジナル企画

例えば防災グッズを揃えたり、各家庭の防災ルールを決めたり、防災拠点を実際に歩いたり。実際に行動に移すことまでがEnPalが考える防災活動です。

子どもが一人でいるときでも避難場所に行け、
いのちが助かるまちづくりへ

株式会社 EnPal
東京オフィス　〒107-0061 東京都港区北青山2-12-22 青山テラス301号　FAX:03-3470-2711
お問い合わせ　MAIL info@en-pal.co.jp (担当:金藤・岩井)　WEB https://en-pal.co.jp/